



平成 28 年 1 月 15 日

各 位

会 社 名 ダイドードリンコ株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 高松 富也
(コード番号：2590 東証第1部)
問 い 合 わ せ 先 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長
長谷川 直和
電 話 番 号 06-6222-2621

持株会社体制への移行方針決定に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 1 月 15 日開催の取締役会において、平成 29 年 1 月 21 日を目処に持株会社体制へ移行する方針を決定し、その本格的な準備を開始することを決議しましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、持株会社体制への移行につきましては、平成 28 年 4 月 15 日に開催予定の定時株主総会での承認を経て正式に決定する予定です。

記

1. 持株会社体制移行の背景

ダイドールグループは、新たなグループ理念・グループビジョンのもと、2018 年度を最終年度とする中期経営計画「Challenge the Next Stage」を推進しています。「既存事業成長へのチャレンジ」「商品力強化へのチャレンジ」「海外展開へのチャレンジ」「新たな事業基盤確立へのチャレンジ」の 4 つのテーマに取組み、2018 年度には売上高を 2,000 億円へ、営業利益率を 4 %に引き上げることを目標としています。

2014 年 4 月の消費税増税以降、飲料業界の市場動向は大きく変化しており、消費者の低価格志向の高まりや流通チェーンの合併・統合等による販売促進活動に対する交渉力の強化、競争力の高いプライベートブランドのさらなる拡大を背景として価格競争が激化するなど、収益確保に向けた経営環境は極めて厳しいものとなっています。

このような経営環境の激変に対応し、将来にわたる持続的成長の実現と中長期的な企業価値向上をめざすためには、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を実現するグループガバナンス改革が必要であると判断しました。

2. 持株会社体制移行の目的

中期経営計画の達成をひとつの通過点として、次代に向けた企業価値創造へのチャレンジを続けていくことを目的として、グループ経営の基盤強化を図ります。

(1) グループ経営強化

持株会社体制に移行することにより、グループガバナンスを強化し、各事業の責任と権限の明確化を図り、コア事業である国内飲料事業のキャッシュフローの継続的拡大を実現していきます。

また、グループ経営における海外飲料事業の重要性の高まりに対応し、海外飲料管理会社を新設することにより、経営管理体制・リスク管理体制の整備につとめます。

(2) 事業領域拡大への機動的対応

事業環境の大きな変化に対応し、グループとしての持続的な利益成長・資本効率向上を実現していくためには、既存事業によるキャッシュフローの継続的拡大へのチャレンジに加えて、これまで積み上げてきた内部留保を有効活用し、ヘルスケア領域などの収益性・成長性の高い新たな事業領域を獲得していくことも重要な課題と考えています。M&A戦略に機動的に対応できる組織体制を整備し、積極的にチャレンジしていきます。

3. 持株会社体制への移行方法

具体的な移行スキーム及び持株会社移行後の体制等につきましては、今後詳細な検討を実施し、取締役会で決議次第、開示します。

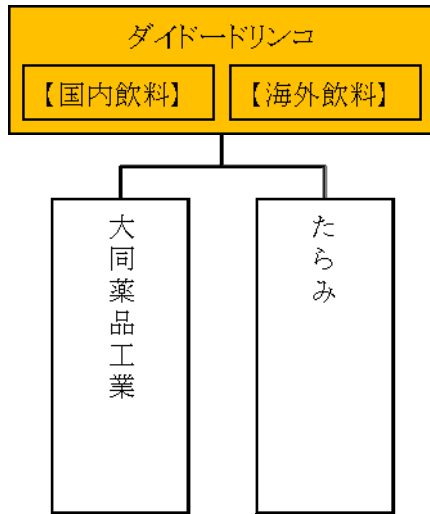
4. 持株会社体制への移行日程

平成 28 年 4 月 15 日（予定）第 41 回定時株主総会での議案上程

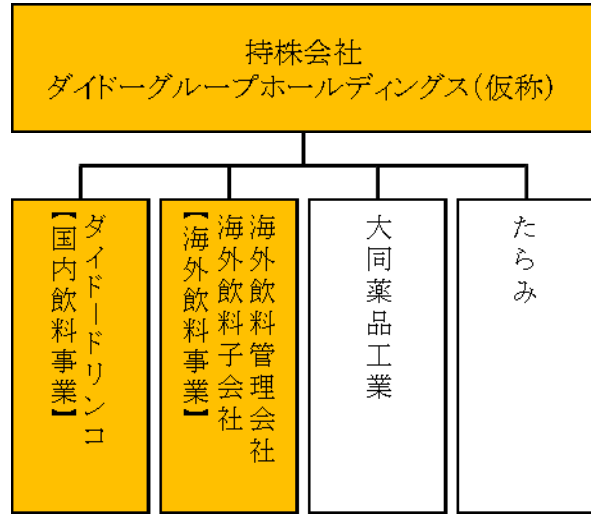
平成 29 年 1 月 21 日（予定）持株会社体制への移行

5. 持株会社体制移行後のイメージ図

【現状】



【持株会社体制移行後】



以上